

新司法試験合格者数問題に関する声明

2004年11月8日

先般、新聞紙上において、法務省が、法科大学院の修了者を対象として2006年度から実施される新司法試験の当面の合格者数について政府の素案をまとめており、年内には、司法試験委員会がこの案を軸に最終決定すると報道された。この「素案」については、既に日弁連会長、法科大学院協会理事長代行、多くの法科大学院の代表者等からそれを憂慮する談話、声明等が出されているが、われわれも、この案に対し、法科大学院を中心とした新しい法曹養成制度の根底を揺るがすものであると強く懸念している。

そもそも法科大学院での教育・司法試験・司法修習を有機的に連携させた「プロセス」としての法曹養成制度は、「現行制度の問題点を克服し、司法（法曹）が21世紀の我が国社会において期待される役割を十全に果たすための人的基盤を確立するために」（司法制度改革審議会意見書）まさに司法制度改革の要諦として、司法制度改革審議会、司法制度改革推進本部、さらには国会での審議を通じて、国民各層の意見や期待を反映させつつ導入されたものである。それゆえ、新司法試験合格者数の検討は、国民の期待に応え司法制度改革を全うさせるためにいかにして法科大学院を中核とした法曹養成制度を成功させるか、という見地からなされるべきである。そして、われわれは、このような見地から、報道されている「素案」に強い危惧を感じざるをえない。

第一に、「素案」が、初年度（2006年度）の合格者数について、新旧司法試験の合格者数を同数の800人ずつとしていることは、新しい法曹養成制度が現在の制度の問題点を克服するためのあるべき制度として登場していることを曖昧にし、法曹を目指している（あるいは目指そうとしている）人たちに誤ったメッセージを与えるものである。現行司法試験合格者数が2005年度1,500人、2006年度800人というのでは、現行司法試験受験者を法科大学院進学へと誘導することができにくいというだけでなく、新たに現行司法試験を目指す人たちを多数生み出すことになりかねない。これでは、法科大学院の定着を妨げるだけでなく、現行司法試験廃止に伴う矛盾を激化させることになる。

このように初年度の新旧司法試験の合格者数を同数とする根拠の一つは、現行司法試験を選択した学生の質が高いことに求められていると報道されている。しかし、これは、現行の司法試験のみによる選抜の問題性が認識されて、「21世紀の司法を支えるにふさわしい質・量ともに豊かな法曹を養成する」（司法制度改革審議会意見書）ためにこそ法科大学院が設置されたという新たな法曹養成制度設立の趣旨を否定するものであり、また、新しい法曹養成制度の理念を実現すべく日夜真剣に努力している法科大学院の教員や学生に対する不信感を示すものであって、とうてい

認めがたい理由付けである。

第二に、「素案」は、2006年度の800人に続き2007年度1,600人、2008年度2,300人、2009年度2,800人、2010年度2,950人と新司法試験合格者数を漸増させているが、こうした新司法試験合格者数の増加案は、新たな法曹養成制度の定着のためには不十分なものであり、現行司法試験の合格者数をもっと絞り、その数を新司法試験合格者にシフトすると共に、より急速に3,000人へと近づけるべきである。

法務省の想定によれば、2008年度で新司法試験の合格率が20%となりその後も2割程度で推移するとのことだが、法科大学院修了者の20%しか合格できない制度は、70～80パーセントの修了者を合格させるという司法制度改革審議会意見書の想定とは大きく食い違っている。全法科大学院生の20%しか合格できない制度は、すでに制度設計として大きな社会的損失であるにとどまらず、法科大学院とその学生に対して過度の負担を強いるものである。新たな法曹養成制度に期待し、これを支える法科大学院を担う者として、この案が法科大学院制度を骨抜きにし、司法制度改革の前提を崩壊させかねないことを強く憂慮する。

われわれは、司法試験委員会が、こうした「素案」の問題性を十分認識すると共に、これまでの司法制度改革の動きを適切に踏まえた上で、当面の新司法試験合格者数につき判断されることを強く要望する。

以上

大阪学院大学大学院法務研究科長	南川諦弘
大阪市立大学大学院法学研究科法曹養成専攻長	高橋 眞
関西大学大学院法務研究科長	山中敬一
関西学院大学大学院司法研究科長	加藤 徹
近畿大学大学院法務研究科長	佐藤幸治
京都産業大学大学院法務研究科長	村田博史
甲南大学大学院法学研究科長	渡辺_修
神戸学院大学大学院実務法学研究科長	實方謙二
同志社大学大学院司法研究科長	深田三徳
姫路獨協大学大学院法務研究科長	浦東久男
立命館大学大学院法務研究科長	市川正人